

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1012.59	2021/8/30
High	1031.61	2021/9/3
Low	993.04	2021/9/2
Close	1028.00	2021/9/3

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3575.00	2021/8/30
High	3636.00	2021/9/3
Low	3511.00	2021/9/2
Close	3626.00	2021/9/3

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2428.00	2021/8/30
High	2505.00	2021/8/31
Low	2390.00	2021/9/3
Close	2426.00	2021/9/3

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	8564.00	2021/8/30
High	8861.00	2021/9/1
Low	8421.00	2021/8/30
Close	8549.00	2021/9/3



ニュースエクスプレス

インパラプラチナム CEO、タイトなパラジウム供給は2025年まで

インパラプラチナムホールディングスのCEO、Nico Muller は、電話でのインタビューを通じて、パラジウム供給は少なくとも2025年まではタイト気味で、その後はオンスあたり1500ドル程度まで下がるだろうと明かした。
「2025年あたりまでは現物の供給不足とみているが、パラジウム価格は長期的には2000ドル以上には留まらずに多分1500ドルあたりまで下がり、プラチナが大きく値上がりするだろう。」
2025年以降、自動車メーカーがプラチナを多く使うようになり価格は2500ドルから2700ドルまで上がるだろうとも述べた。
また、ロジウムは今後1万5000ドルから2万ドルになるとし、自動車メーカーは半導体問題や、南アフリカの加工能力の問題で保留されていたロジウムが放出されているにもかかわらず価格は高止まりのままだろうとも述べた。
「少なくとも来年は供給不足のために1万5000ドル以上のもので、今後近い将来もロジウム市場はタイトなままだろう。」

(Bloomberg, 2nd September 2021)

米造幣局、2021パラジウムプルーフコインの注文、9月2日より受けつけ

米造幣局は2021年アメリカンイーグル・パラジウムプルーフ1オンスコインの注文を9月2日正午（東部標準時間）より受け付けると発表した。同コインの製造は1万2000枚に限定されており、受付開始後24時間は1世帯につき1枚のみ。今回のプルーフコインは、2017年に販売されたアメリカンイーグル・パラジウム地金型1オンスコインの収集家向けのもとなり、純度99.95%のパラジウムで作られる。米造幣局は毎年仕上げを変えてこのシリーズを発表しており、2018年はプルーフ仕上げのパラジウムコイン、翌年は裏面プルーフコイン、2020年にはマットな仕上げのアンサーキュレイテッドコインを製造している。そして2021年は再びプルーフ仕上げのものとなる。

<https://www.usmint.gov/news/press-releases/united-states-mint-2021-palladium-proof-coin-available-september-2>

日本 8月の新車総販売は2.1%減で2か月連続の落ち込み

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車協会連合会が9月1日に発表した2021年8月の新車販売統計（速報）によると、総台数は前年同月比2.1%減の31万9697台となった。マイナスは10か月ぶりに落ち込んでいた7月から2か月連続になった。

半導体の供給不足やコロナ禍によるアジア諸国からの部品調達の停滞による生産影響が広がっている。総台数のうち登録車は4.4%増の20万6568台となり、6か月連続でプラスを維持した。日本の乗用車メーカーのブランド別では、国内の減産影響が大きいマツダ、スズキ、ダイハツがいずれも2ケタ減となった。

一方で、トヨタ（レクサス含む）など他のブランドはいずれも増加した。トヨタ（同）の販売は7.0%増の10万8203台となり、登録車に占める販売シェアは52.4%と過半数を維持した。ただ、トヨタはアジア諸国からの部品調達に支障が出て、9月はグローバルで大幅な生産調整を予定している。このため、国内販売への影響は避けられず、9月は市場全体の足も引っ張る展開となりそうだ。8月の軽自動車は12.0%減の11万3129台と、3か月連続のマイナスとなった。販売上位メーカーであるダイハツやスズキが減産を余儀なくされており、市場全体では7月（17.0%減）に続いての2ケタ減と、登録車とは対症的な展開になっている。

メーカー別では三菱自動車（6.9%増）を除いて全社がマイナスとなった。販売シェアはダイハツが33.1%で3か月連続の首位となり、続くスズキは31.7%、3番手のホンダは17.9%だった。

<https://response.jp/article/2021/09/01/349077.html>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- プラチナ需要の成長は、大型車に使われるプラチナの量を考慮するとさらに増える可能性がある。中国の排ガス規制は今や世界で最も厳しい水準だが、「国VI」に対応する大型車一台につき13グラムというJM社の推測は、他の自動車市場よりも低い。北米の場合、大型車生産とJM社のプラチナ需要量予測から、大型車一台のプラチナ使用量は約25グラムとされる。詳しくは「プラチナ展望 2021年8月号 大型車の浄化装置のプラチナ増量と生産増、プラチナ需要を後押し」をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/investment-research/perspectives>



(@wpicjapan)